# ニュースレター

2023年12月

日本イーライリリー株式会社

## 日本イーライリリー、ヤングケアラーを取り巻く環境改善に向けた 2年目の取り組み
## 社内理解の醸成で、“気づき”を広げる社員たちのアクションは全国へ拡大

日本の超高齢社会において在宅でのケアは重要なテーマの1つですが、その中で、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを日常的に行っている子どもたち、いわゆる「ヤングケアラー」の存在が注目されています。日本イーライリリーは、2022年2月より有志社員によるプロジェクトを立ち上げ、ヤングケアラー支援を開始しました。本レターでは、2年目の成果をお伝えします。

## 2023年の活動サマリー

2022年の取り組みを踏まえて有志社員を新たに公募し
3月以降、29名の社員が3つのワーキンググループに分かれて活動を開始しました。

全国各地の社員のべ1500人以上を巻き込んだ取り組みや
専門機関との意見交換、社員の家族や友人にも広げる公開講座の開催など
社内外をまたいだ活動で、昨年よりも一歩踏み込んだ一年となりました。

■ **専門機関との連携を多様化・強化**
神戸市、ヤングケアラー協会、立命館大学の研究プロジェクトをはじめ、ヤングケアラー支援を行う様々な団体と情報交換を進め、連携した社外への情報発信を開始しました。

■ **周囲の子どもや大人へ“気づき”を広げる 図書寄贈を全国27か所へ拡大**
「“本”と“本のある場所”で、子どもらしい時間を過ごすことで将来について考えるきっかけになってほしい」という想いに共感した全国の社員が、自発的に地域の子ども食堂や児童館を探し、寄贈につなげました。

■ **社内認知度9割越え。社員が社員を巻き込み、社外へ気づきと仲間を広げていく**
３つのワーキンググループが主導して、社内外の活動を重ねてきました。アンケートの結果からは認知・理解が広がっていることが分かり、さらに参加者から今後の広がりへの期待も多く聞こえてきました。

## ■ 専門機関との連携を多様化・強化

ヤングケアラーを取り巻く環境を正しく理解するため、ヤングケアラー支援を行う様々な団体と意見交換やトークセッションを重ねてきました。「特定非営利活動法人ふうせんの会」との継続的な連携に加え、今 ヤングケアラーを取り巻く状況や周りの環境がどうなのか、また企業に何が求められ何が出来るのかなど、有志社員を中心に熟考し、2023年は社内だけでなくその家族や友人など社外の方々への情報発信を開始しました。対談レポートなど詳細は弊社ウェブサイトをご覧ください。https://www.lilly.com/jp/social-impact/youngcarer

### ① 神戸市 こども・若者ケアラー相談・支援窓口

全国の自治体に先駆けて、ヤングケアラー相談窓口を設置した神戸市。日本イーライリリーの本社所在地でもある神戸市から、「神戸市福祉局相談支援課 こども・若者ケアラー相談・支援窓口」担当課長の上田さん、担当係長の霜川さんにお話を伺いました。

「我々の支援によって、ケアラーが担っているケアをすべて解消することは困難です。我々の役割としては、そのような、支援制度をヤングケアラー支援の視点で調整していく『つなぎ役』になることを目指しています。」

**対談レポート_「神戸市 こども・若者ケアラー相談・支援窓口」（2023年8月発行）**

### ② 子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト

立命館大学人間科学研究所内に設置された研究プロジェクト「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト（YCARP：Young Carers Action Research Project）」。社会学を専門とされる斎藤真緒教授やケアラー経験のある研究員の方々が活動されています。

「若者ケアラーからは、他のケアラーとケアに関する話もしたいが、ケアに関係のない雑談もしたいという希望を聞きます。ケアラーはケアのことだけ考えている訳ではなく、楽しみたい気持ちもあるのです。」

**対談レポート_「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」（2023年9月発行）**

### ③ 一般社団法人ヤングケアラー協会

元当事者や現当事者が集まり設立された、「一般社団法人ヤングケアラー協会」。理事の高垣内さんは元ヤングケアラーであると同時に、製薬会社で MR 職や人事職を務めたご経験も。求められる支援や企業への期待について、お話を伺いました。

「ケアの状況を理解し、受け止めてくれる職場環境や文化が重要だと思います。ヤングケアラーにとって、『チャレンジできる環境』が今は整っていないのです。環境が整いさえすれば、仕事でも輝けるケアラーを私自身たくさん見てきました。企業には前向きに認識いただきたいなと思っています。」

**対談レポート_「一般社団法人ヤングケアラー協会」（2023年9月発行）**

### 公開講座 「ケアと就業を考える－子ども・若者ケアラーを事例に」

2023年10月15日、社員の家族や友人をオフィスにご招待し、職場見学や様々なイベントを楽しんでいただく「リリーフェスティバル」のなかで公開講座を初開催。子ども・若者ケアラーに関する気づきと正しい理解を広げるため、「神戸市 こども・若者ケアラー相談・支援窓口」によるご講演、および「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」の研究者、ケアラー経験のある日本イーライリリー社員が登壇し「ケアと就業」をテーマにトークショーを行いました。

「ヤングケアラー当事者の就職に関する不安や現状」、「若者のケアと就業を企業や社会はどう捉えていくべきか」などに関して、ケアラー当事者、研究者、行政そして民間企業の社員とそれぞれの立場で議論が交わされました。神戸本社の会場とオンラインを含めた100名以上のご参加者とともに、企業や自分たちに出来ることを考えたり、様々な関係者の連携の重要性への気づきがありました。

**公開講座レポート_「ケアと就業を考える－子ども・若者ケアラーを事例に」（2023年12月発行）**

## ■ 周囲の子どもや大人へ“気づき”を広げる 図書寄贈を全国27か所へ拡大

2023年の新たな取り組みとして、北海道から沖縄まで、社員の居住地や勤務地にある地域の子ども食堂や児童館など、27施設に対しヤングケアラーの気づきを促す本を中心に図書寄贈を行いました。2022年に開始した図書寄贈活動を「気づきを広げる LLライブラリー」と名付けて、全国に拡大しました。

「“本”と“本のある場所”で、子どもらしい時間を過ごすことで将来について考えるきっかけになってほしい」という想いに共感した全国の社員が、自発的に地域の子ども食堂や児童館を探し、寄贈につなげました。寄贈先からは「ヤングケアラーへの理解が深まった」、「子どもたちも大人も本を楽しんでいる」などの言葉をいただいています。また、東京都港区長からは、区内の「赤坂子ども中高生プラザ」への図書寄贈を通してヤングケアラー支援に貢献したとして、感謝状が贈られました。

ヤングケアラーを取り巻く状況に対して、周囲の大人の正しい理解を促進し、社内外への気づきの輪を広げる意義のある活動になりました。

「太山寺児童館」（神戸市）に設置された
「気づきを広げる LLライブラリー」

### 「気づきを広げる LLライブラリー」概要

設置先に合わせて、主な対象ごとに社員が選定した図書セット（5～6冊）を寄贈

図書セットの主な対象：①小学生・中学生、②中学生・高校生・若者、③若者・地域の大人

図書選定基準：①ヤングケアラーの認知啓発、②子どもらしい、自由な時間（レスパイト）
③家事やキャリアなどを考えるお役立ち本

設置先：地域の子どもや大人が集まる場所（子ども食堂や児童館）17都道府県27か所
北海道、宮城県、福島県、栃木県、埼玉県、茨城県、神奈川県、東京都
長野県、愛知県、石川県、大阪府、兵庫県、香川県、愛媛県、鹿児島県、沖縄県

### なぜ、『ライブラリー』が課題解決につながるのか？

ライブラリーの設置は、「大人なら当然知っていること、調べればわかることをわからないままに、将来の選択肢も広く知らないで過ごしていた」という元ヤングケアラー当事者の声をきっかけに生まれた活動です。2022年8月にパートナリング契約を締結した「特定非営利活動法人ふうせんの会」との関わりのなかで、“本”と“本のある場所”で、子どもらしく過ごす時間が将来について考えるきっかけとなる可能性があると気づきました。

当初は製薬企業としてヘルスケアに関する情報のアクセス改善に貢献出来ないかと考えましたが、人が人を思うきっかけになる本を選定し、ケアラー本人の自分の立場の認知や、他にも若者の助けになるお役立ち本も含めることになりました。2022年12月には選書した書籍53冊を「ふうせんの会」に寄贈、そして今年は全国に活動を拡大するに至りました。

「ふうせんの会」への寄贈（2022年12月）

「ふうせんの会」に設置されたライブラリーの様子

## ■社内認知度9割越え。社員が社員を巻き込み、社外へ気づきと仲間を広げていく

2023年は社内の認知度だけでなく正しい理解を広げることに意識した結果、9割を超える社内認知度に加え、「内容まで理解ができた」との回答が79.5%と前年の約6割から大きく向上しました。回答者の94.1%が「日本イーライリリーがヤングケアラー支援に取り組むことに意義を感じる」と回答し、具体的な取り組みアイデアや意気込みも数多く集まりました。※日本イーライリリー社内アンケートDOS2023事後調査（2023年10月5日～13日、回答数185）

2023年は社外への情報発信にも努めた年であり、公開講座の参加者からは「ヤングケアラーのことを初めて知った」、「自分のまわりにはいなかったのかな、気づいてなかっただけなのかな」、「ヤングケアラーについて、身近なこととして考えることができた」などの声も聞かれました。有志社員の熱意とともに社内外からの継続への期待の声が高まり、さらに気づきと仲間を広げていく必要性を感じています。

### 有志社員の声

**耳を傾け、正しい理解を社内に広げる**

2022年の社内活動でヤングケアラーのことを知り、2023年からコアメンバーに参加しました。まずは正しい理解が必要だと考え、グループで計5回の外部専門機関との意見交換会を開催しました。そこでの学びを活かして社内向け講演会実施やオリジナルクイズ配布など社内の理解促進を進めています。社内SNSでは関連投稿が147件、昨年対比137%と盛り上がり、社内でのヤングケアラーに関する意見交換にも結び付けられたと実感しています。（信頼性保証本部、与那嶺 明）

**リリーフェスティバルで公開講座やブース出展を企画**

子どもがいる親としても他人事とは思えず、何か出来ないかと思い、2023年のコアメンバーとして参画しました。10月に、社外の方も招くイベントに合わせて、企業としても考えるべき「ケアと就業」をテーマにした公開講座と、250名以上が訪問されたブース出展をチームと一緒に企画しました。何をどうやって伝えていくべきか悩みながらも、改めて自社の強みを感じたり、普段のチーム運営にもつながる気づきが得られたと感じています。（情報技術本部、北村 陽子）

**医療の現場からも感じられることを大切に、チームメンバーとともに図書寄贈**

普段はMRとして医療従事者への情報提供活動を行っていますが、より近くで患者さんを支える子どもたちの存在も考えるようになり、寄り添った活動につなげたいと参加しました。社内での学びに加え、現場からもヤングケアラーそれぞれに合った支援のカタチがあることに気づきました。まず自分たちに出来ることとして、チームメンバーを誘って一緒に図書寄贈を行うことができました。コミュニケーションが深まる良い機会にもなりました。（営業、阿部 稔）

---

**■ ヤングケアラーを取り巻く環境改善に向け、社員の思いやりを原動力に**

2022年9月より日本イーライリリーは、関わりを持つコミュニティを“より”良くする「ソーシャルインパクト」創出の一環として、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行う子どもたち（ヤングケアラー）を取り巻く環境改善に向けた活動を開始しました。その後も、取り組みの担い手となる社員のヤングケアラーに関する認知、理解を高めるため、神戸市や支援団体とのイベントの共催、また社内勉強会の促進など、継続して行っています。有志社員による自発的な企画、運営によって取り組みは拡大し、2023年は複数の支援団体との意見交換を経て、社外への活動として図書寄贈や講演会の実施にいたりました。

**日本イーライリリーについて**

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。https://www.lilly.com/jp

**【本件に関するお問い合わせ先】**
日本イーライリリー株式会社　コーポレート・アフェアーズ本部
川副（カワソエ）　TEL：078-242-9692　Email：kawasoe_yuki@lilly.com